

はじめに (第1回東北大学男女共同参画シンポジウムを終えて)

東北大学男女共同参画委員会
広報ワーキング・グループ座長

大 隅 典 子 (医学系研究科)

大学創立当時の高邁な理念と現在置かれている状況—このギャップを埋めるために、東北大学には平成13年度から「東北大学男女共同参画委員会」が発足しました。その活動の一環として、平成14年9月28日(土)に「第1回東北大学男女共同参画シンポジウム—学問・教育と男女共同参画—」を仙台国際センター大ホールで開催いたしました。雨模様の週末にもかかわらず、東北大学の教職員や学生だけでなく、一般市民の方々や、内閣府、他大学、地方自治体等からも多くの参加者を得て、約470名の参加者がありました。

今回のシンポジウムは、東北大学男女共同参画委員会委員長の馬渡尚憲・東北大学副総長(当時)による委員会活動報告に始まり、原ひろ子氏(放送大学教授、お茶の水女子大学名誉教授、内閣府男女共同参画会議議員)と小舘香椎子氏(日本女子大学教授、応用物理学会男女共同参画委員会)による基調講演、辻村みよ子副委員長(法学研究科)をコーディネーターとした、東北大学の教職員によるパネルディスカッション、そして締めくくりにして、阿部博之・東北大学総長(当時)による「男女共同参画推進のための東北大学宣言」の読み上げと、滞りなく行うことができました。このことは委員会関係者だけでなく多くの教職員の方達のご協力の賜です。心からお礼申し上げます。

初めての試みであったための失敗もありました。その一つはシンポジウムの会場に併設した託児所を用意しなかったことです。会場でご回答頂いた多数の方のアンケート結果(45頁参照)などを、今後のシンポジウム開催や委員会活動に活かしたいと思います。翌日の朝日新聞朝刊(宮城版)では、「今、再び先駆けへ」という見出しでシンポジウムの内容が取り上げられました。宣言文に盛り込まれた「沢柳賞」の制定も含め、本委員会では今後とも、調査・広報活動、育児・介護との両立支援や相談窓口の開設など、男女共同参画推進のためのさまざまな取り組みをしていく予定です。また他大学や地方自治体の関係組織との連携なども計っていく必要があります。ご意見などがありましたら、是非下記までお寄せ下さい。

東北大学男女共同参画委員会ホームページ：<http://web.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/>

男女共同参画委員会メールアドレス：danjyo@bureau.tohoku.ac.jp